

正大 日 月 四 年 五 十 一 九

(日曜日) 第二十二百貳號

木 鈴 商 報

申 上 候

辰 鈴 木 南 糖

毎月三回 七ノ日發行  
定價壹枚貳錢 郵稅壹錢  
廣告料壹行壹回 貳拾錢  
發行所 滨田正夫  
編輯印刷人 滨田正夫  
大阪市南區安堂寺橋通丁目二番地

の不足となる。

よし筒井順慶の獎勵輸出二十六萬擔の  
半數を内地直費に振向かれたとして  
も顧慮するの要はあるまいと思はれる  
併し全部を供給されることは一ヶ月

の消費平均十萬擔として十六萬の過剰  
となる故に此度の協議會に於ても此問  
題を議して居る。

●精糖は會社の態度強く市中又賣物少  
し四五月限△S.R.貳拾貳圓四拾五錢よ  
り五拾錢堅實である此後漸次荷捌け増  
加と共に前途は樂觀されつゝあり。

来月より新高精糖は市場に現はるべき  
を傳ふ「堂々たる大日本は汝を待てり  
それ努力せよ」と言いたい

近來臺灣精糖振はず獨り大阪は大日本  
△の獨占と見ゆ。

●臺灣一種赤双類賣行よし總體に於て  
製品は昨年より優秀にして一般に歡迎  
なつてくる糖商は粗糖聯合會に向つて  
確實に輸出すべき否やを糺ださねばな  
らぬ。

●最後に内地の直費數は今年分蜜三溫  
合計百十萬擔計上される一ヶ月平均  
消費十一萬とせば二十二萬の供給不足  
となり十萬擔の消費とすれば差引十萬

の足りぬことある。然れども市場の奔騰は勢い粗糖會社  
のあざ賣らんとする約三十萬擔を各自  
會社名を附せずに代理店其他より五  
ヶ六マクとして不知不識に市場に賣ら

去る八日ニユーヨク電報は玖瑪五弗に  
して高含み收穫豫想より減少の見込と  
あり十三日には五弗にて多數の取引あ  
り氣配奔騰收穫豫想二百九十八萬擔コ  
レ引續き旱魃の被害によるものあり。  
統計家ヒムリーは裏に豫想三百十八萬  
三千六百三十噸とせしを以て差引二十  
萬三千六百三十噸の減收となる即擔に  
して三百四十六萬百七十一擔である(一  
今期臺灣產糖の約七割五分に當る)

一九一四年一五年度  
工場數二三 工場數二三、五三、六七噸  
一九一五年一六年度  
工場數二三 工場數二三、五三、六七噸  
豫想數二三、九〇、〇〇〇噸  
此豫想數は昨年度に比し猶三十八萬七  
千三百三十三噸の增收となるのである  
●玖瑪糖の收穫時期は毎年十二月に始  
まり六月に終る。

●一九一三年より十五年間の玖瑪糖輸  
出及島内消費を示せば(單位噸)  
一九一三年二四〇、一四三、一四四、一四五  
一九一四年二四〇、一四一、一四二、一四三  
一九一五年二四〇、一四〇、一四一、一四二  
而して同島一昨年度及昨年度輸出仕向  
地別を示せば

國名 一九一三年一四年 一九一四年一五年  
(單位噸)  
赤糖好上計は輸入品イロイロマニラ  
糖の查定後嚴酷にして殆んど輸入不  
可能の状態にあり故に臺灣赤糖の市場  
に於ける稍や其勢力を挽回しつゝあり

●黒糖は不動の姿にて琉球二歩九錢七  
厘一半九錢四厘五毛取引開散にして場  
面扱たり先物も全様當分猶保合状態を  
持続するであろう。

●翻つて海外如何を見るに  
去る八日ニユーヨク電報は玖瑪五弗に  
して高含み收穫豫想より減少の見込と  
あり十三日には五弗にて多數の取引あ  
り氣配奔騰收穫豫想二百九十八萬擔コ  
レ引續き旱魃の被害によるものあり。  
統計家ヒムリーは裏に豫想三百十八萬  
三千六百三十噸とせしを以て差引二十  
萬三千六百三十噸の減收となる即擔に  
して三百四十六萬百七十一擔である(一  
今期臺灣產糖の約七割五分に當る)

一九一四年一五年度  
工場數二三 工場數二三、五三、六七噸  
一九一五年一六年度  
工場數二三 工場數二三、五三、六七噸  
豫想數二三、九〇、〇〇〇噸  
此豫想數は昨年度に比し猶三十八萬七  
千三百三十三噸の增收となるのである  
●玖瑪糖の收穫時期は毎年十二月に始  
まり六月に終る。

●一九一三年より十五年間の玖瑪糖輸  
出及島内消費を示せば(單位噸)  
一九一三年二四〇、一四三、一四四、一四五  
一九一四年二四〇、一四一、一四二、一四三  
一九一五年二四〇、一四〇、一四一、一四二  
而して同島一昨年度及昨年度輸出仕向  
地別を示せば

國名 一九一三年一四年 一九一四年一五年  
(單位噸)  
赤糖好上計は輸入品イロイロマニラ  
糖の查定後嚴酷にして殆んど輸入不  
可能の状態にあり故に臺灣赤糖の市場  
に於ける稍や其勢力を挽回しつゝあり

重大なる地位にあるのが玳瑁であるそこで此玳瑁の庞大なる産額は英佛を砂糖飢饉より救濟すると同時に同島收穫増減が世界的に影響する如何に甚大なるかは敢て贅言を要しない。

となり玳瑁の市場を混ぜ返し不勘打撃を蒙つて居る而して昨年の如き英國は玳瑁を三十五萬四千噸輸入して居る今年は此數を超過する間違ひ無いだろう

故に米國は平時なれば如此供給を仰ぎ  
得て超然として澄まされるものである  
が戰爭の爲めに英國の邪魔物の侵す處

總供給高  
內合衆國消費  
差引  
四、四四〇、〇〇〇  
三、八〇〇、〇〇〇  
六四〇、〇〇〇

布哇  
米本國甜菜糖  
比律賓

てよからう。  
（單位噸）

見せつゝあるは故無きにあらず。  
●一九一六年度米國保護享有地の本國  
に對する供給高はザツト左の通りと見

きに至つた米國は同島を保護する事最も厚く恰も親子の状態である玳瑁の産糖の尚ほ其歩を進めて莫大なる増額を

糖供給上米國の領有地と見做してよからう)然れども此領有地の產額は著しく増加し米國は外國より輸入の必要無

品四十六萬五千噸に對し本年は僅かに七萬五千噸である而して二月と三月の輸入數は昨年二十七萬六千噸に對し今年四十八萬五千噸と見積られて居る然し其消費量は二ヶ月に於て二十三萬三千なるべしと云ふさすれば昨年同期の十三萬二千噸に對し十萬二千噸の減少となる。

●英國輸入増稅十四志は四月五日より實施せらる旨入電ありたり。

●昨日ロンドン入電は玖瑪、瓜哇、西米利加精糖何れも三片高となり瓜哇は去る十一日七八月積十五志六片なりを以て十五志九片となりたる譯なり玖瑪高に刺戟せられ產地商人の思惑盛なる様子尤も英政府の買付けを見込んでの事であらう。

●是等は總て内地糖界に及ぼす影響大なり且灣糖輸出を強める好材料である吾人は花に心を奪はれず常に眼を世界の大局に注ぐを要す。

●デヤーデン、マゼソンを代理店として支那に大なる販路を有する香港に於ける支那製糖株式會社は昨年度營業報告を去る三月廿九日左の如く報告して居る。

(弗は約一圓)  
一九一五年度純益金 一二四、九七九  
前期損失金 三三四、六〇一  
差引純益金 八四、三七九  
會社資本金 二,000,000 弗全部拂込  
利益配當(一割二步) 二四〇,〇〇〇 弗  
後期繰越 四、三七九  
  
前期三十萬圓も損したものが戦争の御  
蔭で百萬圓以上儲け一割二步の配當をし  
た事を同社は非常に満足して居る此例  
は想像の外である思ふに再此如利益は  
あるとしても望まれない事であろう。  
●獨逸のHALLEと云ふ製精糖會社は  
此戰爭により勞働不足貨車缺乏其他種  
々なる支障あるにも不拘最近獨逸の戰  
時公債十五萬圓に應じ且戰線にある會  
社の勞働者に對しては一九一五年の勞  
拂をなして尙株主に對し二割五分の配  
當をなせりと最近通信に見ゆミリタリ  
ズムの充實したる國民性の發露は恐る  
べきものではないか。



辰  
木 鈴 商 店 黑 糖 相 塢

御發電は凡て(才サカス、キ)宛にて着電致し候別に町名不記共宜敷御座候

**及白下地黑糖**

(但し歩合口錢として五歩半掛り可申受候)

二百斤建本造直段

新辰琉球別撰  
拾貳圓七拾五錢

新  
東  
西  
別  
擇

全風全一ツ擇

拾貳圓八拾五錢

辰全大島別撰

拾貳圓貳拾錢

全一ツ撰

拾壹圓六 拾 錢

右之外規定の通荷造貢申受業

同告貢申受卷

大東白下	琉球白下	壹步
拾壹圓七拾錢	拾壹圓七拾錢	九錢
拾壹圓七拾錢	拾壹圓七拾錢	九錢
拾壹圓七拾錢	拾壹圓七拾錢	九錢

卷二十一

打宣圓刀 打銅

名瀨宇檢貳步九錢五厘

白下糖ハ歩口錢ナシ

古糖格安品

大阪市南區末吉橋通二丁目

## 切 切

鈴木商店黒糖部

琉球貳步半